

=2022年 HG 競技委員会議事録=

開催日:2022年10月8日(土) 17:00~20:00

場所:NASA ショップ 2 階

参加者:牟田園明(委員長、司会進行)、櫻井大朗、鈴木皓子(議事録)、中西亮太、箕谷将明、大沢豊(理事)

オブザーバー:櫻井さやか(Fledge 担当)

【前回の持ち帰り事項、継続議題】

・ハングシリーズのポイントの有効人数の基準値を変更する

→大きなルール変更であるため、世界選手権選抜の切れ目である2025年から運用する。2024年に再検討する。

・選手ではないスタッフが集計を行うための環境づくり

→未討論。次回以降議題

・フライトコンテストに宣言地ゴールを追加する

→追加する。箕谷がルール、運用方法を検討し、2023年度の開始を目指す。

・フライトコンテストへのリーグ制導入

→次年度は新たな試みとして宣言地ゴールを追加するため、実施しない。継続議題。

・フライトコンテストで高度制限があるエリアでの対応について、昨年度より、GPS 高度での判定か、気圧高度での判定かエリアルールで決まっていない場合、GPS 高度または気圧高度のどちらかが違反していなければ採用とすることとなった。

→気圧高度が正しく補正されているか確認する方法が未検討。

→テイクオフの高度で補正する。(例:テイクオフ高度 540m の足尾において、トラックログでテイクオフの気圧高度が560mと記録されていた場合、トラックログのすべての高度から20m 減して判定する。)

(牟田園)

・体験会の承認を競技委員会以外(振興)に移管する件を、井上さんと詰める

→未対応

・ルール変更の内容について理事会承認を得てから HP に掲載する

→昨年ルール改正から対応している

・ルールの改定

－GPS について

高度制限を判定する必要があるエリアにおいては気圧高度が測れる機器を用いること

→対応済

(鈴木あ)

・競技委員会の説明ページを HP に掲載する

→未対応。2022 年中に対応する。

・立会人制度

→実施しないこととなった

・ルール改定

－文言の統一

定款・規約・規程ではなく「規則」で統一する

－FS 変更

－フライトコンテストの高度判定

→対応済

(櫻井)

・競技レベル向上委員会(仮)→競技者育成プログラム(Fledge)報告

－今年度実施事業

3 月板敷大会前セミナー

6 月南陽大会前セミナー

7 月南陽大会運営協力

8 月 XCTrack セミナー

8 月スポーツクラス大会

－今年度報告と議論

・櫻井大)利益の蓄積は遅れ気味。目標の 2 年で 40 万円は厳しい。3 年で 40 万円であれば達成可能の見込み。今のところスタッフに十分な謝礼を払えていないので、これ以上のペースで利益を上げるようにシフトするのは難しい。

・櫻井大)スポーツクラス大会については、今回エントリー費 8,000 円で参加人数が9人。エントリー費を上げるか、参加条件を緩和してエントリー人数を増やすか、どちらかの対応となる。

櫻井さ)Fledge は競技者育成なので、利益を追い求めると目的とずれるところがある。エントリー費の値上げは、スポーツクラスの盛り上がり水を差すことになる。

・牟田園)地元のベテラン角ありパイロットである斎藤さんのひとりゴールで、大会が盛り上がった。角なしクラスを併催した場合に、同様の盛り上がり期待できるとは言い難い。あくまで主役はスポーツクラスの選手であるべき。

・櫻井大)スポーツ大会の開催にあたってイントラと相談した結果、NP 証の参加を可とすることは困難である。P 証角なしの参加を緩和して人数を増やす。表彰は角あり角なし別々に行う。

- ・大沢)スポーツクラス大会は、JHF の公認ではなく後援大会として、申請料を 5 千円減らしてはどうか。
- ・櫻井大)Fledge の趣旨を考えると、上級者向け事業から利益を得て、スポーツクラス向け事業では利益を重視しないようにしたい。今年度上級者向け事業である十分一の大会で利益が目標に達しなかったことは課題である。

ーこれからの予定

- ・10月最終週、七曲練習会。
 - ・11 月最終週、西富士初心者向けセミナー。
 - ・(2023年 1 月～3 月スポーツクラス大会)
 - ・2 月足尾フライト講習会。週末 2 日間。講師 1 人に生徒 3、4 人がついて一緒にフライトする。対象者は、ランキング 20 位～40位あたりの人を想定。講師の人数に限りがあるため、参加人数は少なめ。
 - ・8 月、足尾スポーツ大会
 - ・9 月、ニセコ大会、大会前セミナー。
 - ・(10月～11月、七曲で大会。2022 年の練習会後に実施の可否を含めて検討。)
- ・大会前セミナーは、2 月の紀の川でエリアを 1 周するため、エリア紹介以外で何か案があれば実施する。
- ・2022 年度中にスポーツクラスの大会をもう一つ実施する。西日本で行いたいが、竜門は NG。協力してもらえらるエリアが他になければ足尾で行う。学生大会の予定と合わせて日程を検討する。

(鈴木ゆ)

- ・大会受付時のシリーズ登録情報アップデートのやり方を見直す
- 今年度から中西が対応する。

(田中)

- ・大会申請管理の運用方法(リマインド)を見直す
- 牟田園が対応中

【報告事項】

牟田園委員長から 1 年間の活動実績の共有があった。

- ・Civl 総会
- ・JHF 総会
- ・JHF 理事会
- ・委員長会議
- ・HG 競技委員会の予算について

【新規議題】

- ・コロナ誓約書

保健所の対応と誓約書がマッチしていないが、JAA の方針のため勝手に変えられない。

保健所の許可を得ていると書いてもらう等、大会側の判断で対応。

・ポイントラリー暫定運用

使われていない既設の制度。ポイント大会以外の公認大会のパイロンレースで、優勝すると10点のポイントがついて、年間で合算して年間優勝を決めようというもの。

ポイント大会のスポーツクラス、フレッジ大会、学生大会で行う。

→否決)これによってスポーツクラスが盛り上がるイメージができない。

・ポイント大会の出場要件は XCPup にする。

南陽大会は Pup で実施した結果、以下の意見が出た

P 証の参加者が安全に参加できるように主催者が適切な対策を行っているのかどうかを公認手続き時点で確認することが難しい。

P 証の参加者のためにタスクが限定されることは、ポイント大会の趣旨にあわない。

→可決

・FS、GPSDump のバージョンアップ

→櫻井が対応する

・2023年世界選手権@マケドニア選手選抜

牟田園が対応中

世界選ランキング上位者に意向確認、共有済。

チームサイズ決定後、2023 年 1 月に代表選手を正式決定する。

【日本選手権開催予定】

2019足尾

2020板敷

2021足尾

2022西富士

2023板敷

(2024和歌山、難しければ南陽)

(2025足尾)

【2023年度のポイント大会予定】

1 月:西富士

2 月:紀の川

3 月:板敷(日本選手権)

7 月:南陽

9 月:ニセコ

10月:足尾

【次年度役割分担】

牟田園:委員長、議決管理、会計

櫻井:、Fledge

鈴木:規則管理

中西:フライトコンテスト運営、広報、シリーズ登録管理

箕谷:緊急連絡先カード

【持ち帰り事項】

継続議題

・ハングシリーズのポイントの有効人数の基準値を変更する

→大きなルール変更であるため、世界選手権選抜の切れ目である2025年から運用する。2024年に再検討する。

・選手ではないスタッフが集計を行うための環境づくり

→未討論。次回以降議題

牟田園

- ・体験会の承認を競技委員会以外(振興)に移管する件を、井上さんと詰める
- ・2023年世界選手権@マケドニアの代表選手選抜
- ・規則の改定(2022/11 中)
 - ・フライトコンテストでの気圧高度の補正方法(テイクオフ高度で補正する)

鈴木

- ・競技委員会の説明ページを HP に掲載する(2022 年中)
- ・規則の改定(2022/11 中)
 - ・ポイント大会の出場要件は XCPup にする
- ・ハングの歴史編纂

櫻井

- ・FS、GPSDump のバージョンアップ検証(2022/11 中)
- ・競技委員会 HP の選手権の歴史を更新する

中西

- ・大会受付時のシリーズ登録情報アップデートのやり方を見直す

箕谷

- ・フライトコンテストに宣言地ゴールを追加
- ルール、運用方法を検討し、2023年度の開始を目指す。